

発作で痴漢扱い 男性の訴えきっかけ

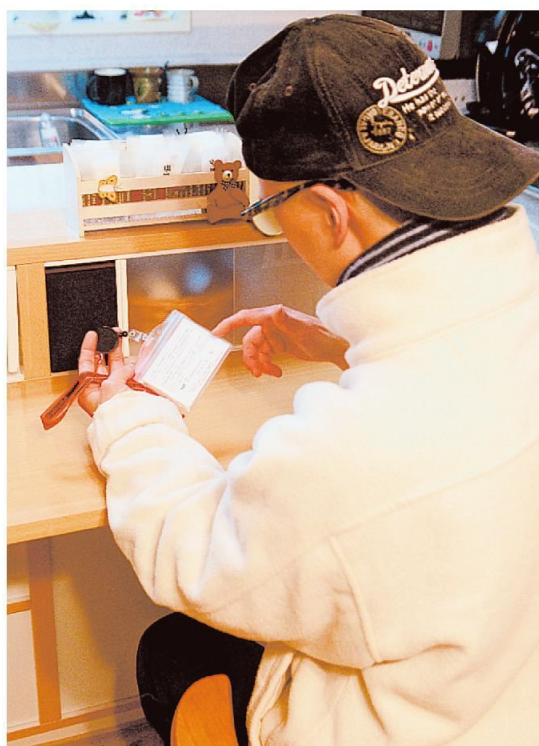
てんかん、高次脳機能障害

「見えない障害」理解を

め、初のシンポジウムを倉敷市で開く。外出中にてんかんの発作で意識を失い、そばにいた女兒に倒れかかったところ、痴漢扱いされたという県内男性(45)の訴えがきっかけだ。(石井聡)

てんかんや高次脳機能障害の患者と家族を支援するNPO法人「おかやま脳外傷友の会モモ」(倉敷市西坂)は31日、外見からは分かりにくい「見えない障害」への理解を深めてもらうた

支援NPOが倉敷で31日シンポ



てんかんの発作でトラブルに遭った男性。手にしているのは外出時に首から下げている診断書

男性によると、2014年11月、県南の商業施設のレジに並んでいたとき、発作に襲われ、意識を失った。前にいた女兒にもたれかかるように倒れたらしい。数分後に意識が戻ると、女兒の母親から「娘の体を触った」と詰め寄られた。間際に及んだ事情聴取の途中で、再

警察署で当時の状況の説明を求められた。意識がなかった間のことを、うまく話せなかった。数時間

に及んだ事情聴取の途中で、再

び発作に襲われた。それにより警察官は「持病は本当のようだ」と理解したのか、解放されたという。

男性はその後、外出時には「発作で無意識の異常行動を取る可能性がある」との医師の診断書をパスケースに入れ、首から下げるようにしている。

男性の話を聞き、同NPOは病気の話を聞き、同NPOは病気がや障害に対する理解を広めようと、シンポジウムを企画した。川崎医療福祉大(倉敷市松島)の種村純教授(臨床神経心理学)が、

てんかんや高次脳機能障害の症状を解説。高次脳機能障害の兄弟がいる南石知哉弁護士(大阪弁護士会)も、患者がトラブルに巻き込まれた際、周囲がどう対応すればいいか説明する。

南石弁護士は「男性のケースで」。

ズーム

てんかん 脳の神経細胞が過剰に活動することで起こる疾患。発作の頻度や種類は患者ごとに異なるが、意識を失うことがあるほか、けいれんや体の硬直などの症状がある。

多くの場合、薬を服用すれば発作のコントロールが可能で、通常の生活を送ることができる。厚生労働省の推計では、患者は全国に約100万人。